



## 市民活動の 新たな挑戦

いろいろな悩みや不安、難題を抱える人たちを支え、問題解決に積極的に取り組む市民活動は各地です。野を広く、ファイザーではヘルスケアの分野の市民活動を支援し、その社会的認知を高めることを目的に、2000年から助成プログラムをスタートさせた。過去の実績にとらわれずに、活動のユニークさと将来性に評価の重点を置いているのが特徴。2002年度の助成対象となった各プロジェクト(左頁参照)を中心に、9回連続(今回は第2回)でリポートする。



写真上/新宿中央公園での医療相談会。炊き出しに集まってきた野宿生活者に呼びかけたり、チラシ(路上新聞)を配布して、常時知らせしている。写真下/連絡会・医療班の主なメンバー。前列右から時計回りに大脇医師、稲葉さん、上釜さん、金沢さん

### 新宿連絡会医療班 プライマリヘルスケア・アプローチ による路上死のない街へ (東京都)

## 医療相談活動を通して 野宿生活者の 生活基盤づくりをめざす

「ここ数年、昨日までサラリーマンをやっていた人がリストラされて野宿を余儀なくされるケースが目立ちます。職種もいろいろで、とても深刻」

東京・新宿地域を中心に野宿生活者の医療相談や福祉活動を行っている「新宿連絡会」。

連絡会の設立にも参画し、コーディネーターを担当する稲葉剛さんである。会の発足は、1994年の2月に新宿駅西口地下広場で行われた野宿者の追い出しがきっかけ。やり方のあまりのひどさに、稲葉さんら支援メンバーや当事者たちが集まった。ただ追い出すのではなく、野宿から抜け出すための対策整備を行政へ東



京都と新宿区に求めていくことを目的に、8月に結成された合同組織。それ以降、行

政への要求活動をすすめる一方、「仲間の命は仲間の方で」との思いをもとに、野宿の当事者たちとパトロール(夜回り)や炊き出しを行ってきた。96年3月には、医師や看護師などの医療関係者で組織する医療班を立ち上げる。

「半数以上の方が体調不良を訴えている。厳しい生活環境の中では重症化する可能性もある。誰にも看取られずに路上で餓死する人もいます」

と、医療班に同年9月から参加した大脇甲哉医師。毎月第2日曜日に戸山公園と新宿中央公園で医療相談会、第4日曜日にはパトロールに帯同して医療パトロールを実施。

相談会で出会えない人たちへの情報提供と健康相談を行っている。問診をして市販薬を提供したり、医療機関への受診が必要な人には医師が紹介状を作成する。その翌日には



医療相談会の支援に集まった学生や社会人のボランティアに、医療相談会のすすめ方について説明をする大脇医師と稲葉さん

紹介状を持って福祉事務所に行く野宿者の受診手続と、医療費を生活保護扱いにしてもらう申請手続の手伝いを稲葉さんらメンバーが行う。救急搬送が必要な重症者には救急車に添乗し、入院の確認やお見舞い、通院や退院後の生活保護申請や居宅の確保など、心身のケアに努めている。「路上から入院したということは、その人はすでに生活保護の利用者なんです。しかし、生活保護が実施されているのに、なんの説明もなく、利用の仕方がわからないまま退院して、打ち切られてしまう。結果として、また路上生活に戻ってしまう。生活保護が廃止されないように、我々も更に病院や福祉との連携をとっていきたい」と語る大脇さんらの活動は、路上生活者たちの生活基盤確立への突破口になるかもしれない。

**2002年度  
助成対象プロジェクトの  
団体名・活動内容・  
主な活動地域**

1	重度知的障害者の デイサービス事業の創設 特定非営利活動法人 障害者家族地域生活支援事業所 フリーダム十勝(北海道)
2	精神障害回復者 小規模共同作業所マップ 特定非営利活動法人 札幌精進(北海道)
3	商店街で活動する精神障害者の ピアサポート支援事業 特定非営利活動法人 SAN Net青森(青森県)
4	青年とまちの人とがふれあう場 「とらいスペース」の開設 特定非営利活動法人茨城NPO センター・commons(茨城県)
5	ひきこもり当事者による 雑誌発行プロジェクト 特定非営利活動法人 東京シュレ(東京都)
6	女性アルコール依存症者 サポートセンター事業 特定非営利活動法人 ジャパンマック(東京都)
7	ミャンマー/ドーボン都区 障害者支援事業 特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン(東京都)
8	プライマリヘルスケア・アプローチ による路上死のない街へ 新宿連絡会医療班(東京都)
9	摂食障害者の自立と成長のための ピアサポート事業 日本アムキシア・アジア協会 (東京都)
10	病気の子ども支援のための 情報発信とネットワーク構築事業 病気と子どもネット・京都(京都府)
11	知的障害者の性の ワークショップ事業 特定非営利活動法人エンパワメント ・プランニング協会(大阪府)
12	小児がん患者、家族の 精神的サポート体制の確立事業 特定非営利活動法人 エスビューロー(兵庫県)
13	精神障害者ピアヘルパー等 養成事業 兵庫県高齢者生活協同組合 (兵庫県)
14	在日外国人高齢者の地域における 居場所づくり事業 神戸定住外国人支援センター (兵庫県)
15	芸術とヘルスケアの関わりによる まちづくり事業 アートステーションどんごや(宮崎県)

\*他に、12団体が継続助成対象としてプロジェクトを行なっています。

**【ファイザープログラム】  
心とからだのヘルスケアに  
関する市民活動支援**

**2003年度 募集要項**

1. 募集期間: 2003年6月16日~7月18日
2. 助成金: 1件あたり300万円を上限とし、本年度は15件程度の助成を予定しています
3. 助成の期間: 2004年1月1日~12月31日(1年間)とします
4. 対象となる分野: 特に次のようなプロジェクトを重視します。
  - 1) 成長過程にある人たちの心身のすこやかな発達を支援する活動  
→おもに10代が抱える問題を克服し生きる喜びをもつことを助けるもの
  - 2) 社会的な受け皿がないために保健・医療が受けられない人たちの心身のケアを支援する活動  
→外国人、路上生活者、PTSD(心的外傷後ストレス障害)などの人々を対象とするもの
  - 3) 障害をもつ人や療養にある人たちの充実した生き方を支援する活動  
→身体障害、知的障害、精神障害などの人々、難病、長期療養にある人たちの社会生活を豊かにするもの
5. 問い合わせ先:  
ファイザープログラム事務局  
プログラムの詳細は、こちら  
<http://www.pfizer.co.jp/pfizer/company/philanthropy>



写真上/JR新長田駅前にある勤労市民センター「ピフレ」で、毎週1回行われている昼食会。全員で分担して作る。今日のメニューはお馴染みのピビンバ、チヂミ、だんご汁、ちんげん菜のキムチ。参加費はボランティアも含めて一律300円。写真下/代表の金宣吉さん(右)と事務局長の横山雅子さん

**神戸定住外国人支援センター(ハナの会)  
在日外国人高齢者の地域における  
居場所づくり事業  
(兵庫県)**



「ハナの会」は韓国語で「一つ」の意を設立したのは99年である。毎週1回、3

神戸市には約4万4600人の外国人が定住しており、その半数以上は在日コリアン(韓国・朝鮮人)である。1995年の阪神・淡路大震災で、長田区をはじめとする在日コリアンの居住地域がもつとも壊滅的な被害を受けた。とりわけ深刻な状況に置かれたのは、高齢化が進む中で居場所を失って孤立化した在日1世である。こうした状況のなかで在日3世の金宣吉さんと金周司さんらが、在日高齢者コリアンのための「居場所づくり」とケアを柱とした活動を始めようと神戸定住外国人支援センターの中に「KFCハナの会」

**在日コリアン1世の  
ケアと居場所づくりを通じて  
世代間交流を深める**

世、4世の若者と一緒に韓国料理を作ったり、月に一度は民族芸能や民謡を楽しむ。毎回30人前後の女性が集まる。終戦前後、20歳になるやならずで渡日してきた1世たちは同胞社会の中で生きてきたため、日本語の読み書きが十分にできない人も多い。金さんたちはそうした1世たちの重たい口を開かせて、ビデオによる聞き取り調査を行っている。彼女らの生活史を生の声できちんと記録に残すためだ。「識字率が低いので介護保険制度などの高齢者向けの制度やサービスがよくわからない。そのため説明会を開いて情報を提供するとともに、個人的に相談に応じたりしながら聞き取りを行っています。また既存のサービス施設を利用して韓国・朝鮮と日本の文化の違いがあって娯楽を楽しめない。日本の民謡や童話では、彼女たちには懐かしくないです。ね。娯楽一つを提供するのにも民族性を考えないとうまくいかない」そこで母国の高齢者がどんな娯楽を楽しんでいるか、韓国・釜山の高齢者レクリエーションセンターを訪ねる予定でいる。「ハナの会」の設立に先立ち金さんはアメリカ研修に参加し、とくにサンフランシスコの日系人コミュニティで学んだことが大きかったという。「今後は地域社会における社会的マイノリティの理解を得るために、文化交流や世代間交流を積極的に進める、パイロット・レクリエーション事業を実施していきたい」

地域社会に民族や文化の異なる多様な形の居場所が根づいてこそ、その地域社会が包容力のある豊かなものになるというのが金さんたちの考えである。



出生地や渡日時の状況、居住歴から差別状態、現在の健康状態、生活状況などを細かな項目に沿って聞き取りを行っている。